山形県PTA 親子読書だより

令和6年3月発行 山形県PTA連合会 親子読書推進委員会

《スローガン》親子で読書深める絆~本を読む子はかならず伸びる~

- ▶山形県PTA連合会では、親も子供と一緒に読書に親しみ、家庭に読書文化の礎を築くために親子読書を推進しています。
- ▶親も子も共に読書に親しむことで、親子のコミュニケーションを活発にし、子供も親も心が豊かになり、絆が深まることと思います。
- ▶読書習慣が子供の学力をアップします。読書習慣は文章を読み解く力と密接に関係しているのです。

応募ありがとうございました!

令和5年度 「親子で読み合いたい一冊」の紹介

【ないたあかおに】

お母さんにすすめられて読みました。あかおには人間となかよくなれたけど、かわりにだいじな人をなくした。あかおにの本当のしあわせについて考えさせられました。(小3)

山形県出身の有名な作家さんなのでぜひ読んでほしかった。また、この本を読んで強く感じたことは、身近にある何気ない普段の生活の中に本当の幸せがあり、人は失ってその大切さを知る。失う前にその幸せに気付き大切にしなければいけない。この本の深い意味を成長と共に理解してほしく思う。(母)

【ぼくだけのこと】

せかいにはたくさんの人がいてその 数だけこせいがある。とくいなこともに がてなこともその人だけのとくべつな こせい。そのこせいをだいじにしたいと 思ってえらびました。(小2)

【おまえうまそうだな】

ようちえんのときからだいすきな本です。大きなきょうりゅうが小さなきょうりゅうを大切に思う本です。ぼくも友達や、きょうだいたち、かぞくのみんなを大切にしたいと思える本です。(小2)

【それしかないわけないでしょう】

総や主人公の女の子と家族の会話がかわいく、心温まるところがこの本の魅力です。主人公の女の子が子供ならではの想像力で未来の選択肢を考えているところが、想像力豊かでおもしろいです。この本を読むことで未来がもっと多くの可能性に満ちていると気づかせてくれるからです。(中3)

【男子弁当部】

私もお弁当を食べることが好きなので、いつか自分で作れたらいいなと思い、参考にしたいと思って選びました。お弁当を作るときのアイテムのことについてもたくさんかいてあり、ためしてみたいと思います。お弁当の中に入れる材料の一部の作り方も書いてあり、とても参考になったので、作る機会があれば作りたいです。(小6)

【給食室のいちにち】

私は、毎日、給食の先生のつくったごはんを食べています。とってもおいしいといつも思っています。なので、給食室のいちにちの本を選びました。給食の先生はいつも苦労をして私たちにごはんをつくってくれてほんとうにありがとうございますと思いました。(小4)

【十五少年漂流記】

母親に勧められて読み、面白く教訓になる本だったため。SFながらも、現実にも通じる環境と少年さながらの人間関係や一人一人の個性による難局の突破が癖になる。ヴェルヌの想像力を讃えたくなるほどに面白い。(中2)

【きみはほんとうにステキだね】

自分は3人の男の子の父親です。この本は子供が幼稚園の時に借りてきてくれて、初めて出会いました。子育ての難しさを感じた時に、一人ひとりの個性の大切さや各々を大切に思う心を教えてくれた本です。その日からこの本は自分にとって大切な一冊となりました。ぜひ多くの方にこの本を読んでもらい、命の大切さや人を認めるすばらしさを感じてほしいと思います。(小5父)



【ふまんがあります】

おとながずるいとぼくもおもったので、おとなもよんでほしい。(小1)

【よだかの星】

よだかは、みにくい鳥でたかから名前を変えろといじめられていて、わたしは 人を見ためではんだんしてはいけない んだとおもいました。(小5)

親子で読書をする時間を持てて良かったです。子供の頃に読む印象とはまた違った考えや発見がありました。親子読書をきっかけに、再び色々な本を読み返していきたいと思います。(母)

【給食番長】

娘が入学当初、給食が食べられなく て毎日登校前に泣いていたこともあ り、「これだ!!」と思い親子で選びま した。この本を通して、給食を作って 下さる方の気持ちを娘と一緒に再確認 ができました。今はもう給食がイヤだ という気持ちは無くなっているので、 入学当初の時を振り返って、親子で話 ができました。子供にもわかりやすく 素敵な本でした。(小1母)



親子読書活動紹介《最北地区》

楯岡中学校

本の読み聞かせ活動 ~地域で子供たちを育てる~



村山市立楯岡中学校 母親委員長 長谷川多恵

「中学生に本の読み聞かせ?」と思われる親御さんもきっといらっしゃるかと思います。

私が中学生の頃、教育実習に来てくれた大学生のお姉さんが、自身の中高生時代の話をしてくれる機会がありました。将来を有望視されたスポーツの選手だったのに、大怪我をしてしまい、色々な葛藤の末、教職に進む道を選んで今ここにいるといった話だったかと思います。身近な人の生きた声と話にとても感動し、涙が止まりませんでした。その経験は、私がその先歩んできた人生の中で幾度となく思い出され、私を支えてきてくれたと思うのです。

中学生への読み聞かせは、思春期の中学生の心に栄養と潤いをあげられるような活動だと思いながら取り組んでいます。

そして、とても真剣に耳を傾けてくれる大きな子供たちに、毎回胸がいっぱいになります。今年度は、広く読み聞かせボランティアの協力も呼びかけ、母親委員以外の保護者のお父さん、お母さん、地域の方、職員の OB の方にもご協力頂きました。読み聞かせを終え、地域で子供たちを育てているという安心感や嬉しさも強く感じることができました。



こんな本を読みました!

- ・なまえのないねこ
- まよいが
- ・ちちゃこいやつ
- ねこの看護師ラディ
- ・とうふこぞう
- ・まばたき
- しろ
- 風の旅
- おおきな木
- 鈴の鳴る道

- ・いのちのおはなし
- ・光の旅 かげの旅
- ぼくたちはなぜ学校へ行くのか
- ・にんげんだもの
- ・心に響く小さな5つの物語
- 死にがみさんとアヒルさん
- ・ねこはるすばん
- ・せかいいち うつくしい ぼくの村
- 世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ
- 100年たったら
- せかいでさいしょにズボンをはいた女の子



親子読書活動紹介《庄内地区》

心の栄養、「ビタミンブック」

酒田市立松陵小学校 母親委員長 佐藤由佳

本校ではボランティアの方々が、年8回各クラスで読み聞かせを行っています。(通称「ビタミンブック」) それぞれ自分が好きな本を持ってくるので、子供たちは毎回、何を読んでくれるのかとても楽しみにしているようです。



私自身も、読み聞かせのボランティアの一員です。「読んだことある?」「どうだった?」と、子供たちと会話をしながら、読み聞かせが楽しい時間になってほしいと思って活動しています。また、読み聞かせが終わった後に会員で集まり、読んだ本を紹介したり、子供たちの様子を報告したりもして

います。家で読み聞かせの練習をしていると、自分の子が「次その本見せて。」といろいろな本に興味をもつようにもなりました。

絵本に触れると、想像力が豊かになります。また、それぞれの本から元気をもらったり癒されたりもします。これからも、何回も繰り返して読みたい本との出会いを応援していきたいと思います。



親子読書活動紹介《置賜地区》



浜田広介先生が学んだ屋代小学校



高畠町立屋代小学校

本校は、浜田広介先生の母校として知られています。毎年、広介先生の作品を暗唱したり、 感想文・感想画に取り組んだりする「ひろすけ学習」を行っています。そうした広介先生から の教えを受け継いで、充実した蔵書に触れながら、多様な読書活動を行っています。

家族読書

年に3回、家族読書の取り組みを行っています。低学年では、お家の方が読み聞かせをし、中・高学年では、親子それぞれが本を読んで感想を書きます。その後、図書だよりを発行し、お家の方から寄せられた様々な感想をお知らせしています。

お家の方から寄せられたご感想の一部

「せかいでさいしょに

ズボンをはいた女の子」 なるべく親目線で読んでほしい本 を選びました。本を読む聞くだけでは なく、内容について話をすることでい ろんな考え方があることを知れたと 思います。また、すごいと感じたことを自分の言葉で話すことでよく考えるいい機会になったと思います。貴重な機会をありがとうございました。 (2年生保護者)

「みえるとかみえないとか」

この本は自分が見えている世界が必ずしも同じではないと教えてくれる本です。目の見えない人、身長の低い子どもなど、その人にしか見えない世界もあり、自分があたりまえではないことを教えてくれたお話でした。

(3年生保護者)

「羅牛門」

学生の頃教科書で習いましたが内容をあいまいにしか覚えておらず今回読んでみて、「あーこんな話だったな」となつかしく思いました。状況によって人の感情は移り変わること、時と場合によって必要な悪もあるということを伝えたいのではないかと思います。 (6年生保護者)

親子読書活動紹介《村山地区》



絵本の読み聞かせ

中山町立中山中学校PTA会長 森谷輝文

本校では、2000年から、朝活動の時間に絵本の読み聞かせを行っています。中山町内にある「ほぐわぁつ」という読み聞かせの団体のお手伝いをいただき、年1回行っています。今年度も12月上旬に全学級にて行われました。

20分間という短い時間で、しかも絵本を読み聞かせるのですが、大人が聴いても絵本の内容に感動し、つい涙を流す場面もありました。薄い絵本の中に、喜び・怒り・悲しみ・楽しみが詰まっています。子供たちは、語り手が紡ぎ出す一つひとつの言葉に熱心に耳を傾けていました。

黙って自分のイメージで読書をするのもとても楽しいことですが、保護者や近所の大人たちが心を込めて読んでくれるのを聴くことも、子供たちにとって心を耕すよい機会となっています。



「觀子で読み合いたいー伽」ベスト5

過去5年間にわたる応募の中から、親・教師・子供が推薦してくださった書籍"ベスト5"を 紹介します。家族で一緒に読み合ってはいかがでしょう。

児童・牛徒の部

☆過去5年間の応募総数:4,814件 $(R1 \sim R5)$



5位

4位

3位

2位

1 位







「ないたあかおに」



「ざんねんな 生き物辞典」



「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」



「おしりたんてい」

保護者・教師の部

5位

4 位





1位



「おしりたんてい」



「ざんねんな 生き物辞典」



「かみさまに あいたい」



「花ちゃんの みそ汁」



「ないたあかおに」

"シリーズ本"ランキング ベスト5

書籍"ベスト5"には入らなかったものの、シリーズ本としてみると、多くの方から推薦して いただいた本があります。大変人気のあるシリーズ本です。

【かいけつゾロリ】

ゾロリはあきらめずにがんばる ことで大活躍します。あきらめ ずに続けているとそのうち成功 する?お話。

【バムとケロ】

バムとケロの他にたくさんの お友達が登場するので、読む たびに子どもと新しい発見が できる楽しい一冊です。

1位:「かいけつゾロリ」

2位:「バムとケロ」

3位:「ノラネコぐんだん」

4位:「ルルとうう」 5位:「わんぱくだん」

【ノラネコぐんだん】

【わんぱくだん】

いつも不思議なことが起こる仲 良し3人組の冒険物語。ワクワク のストーリー展開についつい引き 込まれます。

【ルルとララ】

おりょうりをつくるおはなし です。おきゃくさんをよんでパ ーティーをひらきます。いつも おいしそうなおかしができま す。

8匹のノラネコたちがおもいのままに行動し、大騒動を巻き起 こします。食いしん坊やおかしな食を楽しく描いた絵本です。